

# AAALA ニュース 140 号

## 内容紹介

### 01 ポリビア外相「BRICS 会議出席にあたっての態度表明」

7月31日にポリビアのマイタ外相が行った記者会見での発言です。8月24日に南アフリカで BRICS の会議が予定されており、議長国南アフリカのシリル・ラマポーザ大統領から参加を要請され、ポリビア政府はこれを歓迎し受諾するという内容です。さらに、ポリビア政府として、BRICS の趣旨、歴史的意義を評価関係を強化する意向を示しています。ポリビアのナタリア・サラサール駐日臨時大使からの要望で掲載します。

### 02 マンスリー・レビュー「ニジェールを超えて」

西アフリカのニジェールが新たな冷戦の最前線となりつつある。西アフリカ諸国経済共同体 (ECOWAS) はアメリカとヨーロッパの全面的な支援を受け、西アフリカにおける反植民地運動を阻止する帝国の手段として利用されている可能性がある。

### 03 B.ワナー「ワシントン・ポストはクラスター爆弾の応援団を続ける

WP の世論喚起の手法は、企業メディアの戦争報道に特徴的な「ライトサイド対ダークサイド」(勸善懲悪)の道徳的レトリックで溢れている。

この二元的な世界観の帰結として、ますます泥沼化する戦争と戦闘手段の凶悪化を、“本質的に正義であり、西側は常に崇高な目的を掲げており、さまざまな兵器はそれら達成するために必要である”かのように見せる傾向がある。(リード)

### 04 チョストフスキー「レーニンの平和共存路線とジェノバ会議 50 年」

今年はジェノバ会議 100 周年に当たります。レーニンの率いる社会主義ロシアが、資本主義国に向けて「異なる社会体制間の平和共存」を提起した会議でした。50 年前に Foreign Affairs に掲載された論文を再掲し、改めて平和共存の概念を考えてみたいと思います。(編集部)

### 05 フェアオブザーバ「イスラム諸国の外交動向」

リード：イスラム諸国は、中立の外交政策を志向するようになっている。これは単にリベラルなイデオロギーに反対しているからだと考え人が多いが、近ごろの戦略的外交政策を詳しく調べてみると、より含蓄があり、実際的で多極的なアプローチであることがわかる。(リード)

### 06 ConsortNews 「中東での米国の権威失墜と中国」

原題は China & the Axis of the Sanctioned 「中国とのけ者同盟」

リード：中東におけるアメリカの外交的影響力の低下は明らかだ。それは中国の外交攻勢のためだけではなく、30年にわたるワシントンの無能、傲慢、二枚舌を反映したものである。

## 07 短報欄

### \*キューバ大統領「7月26日\_70周年記念演説」

キューバ共産党中央委員会第一書記兼共和国大統領ミゲル・マリオ・ディアス＝カネル・ベルムーデスが、2023年（革命65年）7月26日、サンティアゴ・デ・クーバのモンカダ兵営とカルロス・マヌエル・デ・セスペデス兵営襲撃70周年記念式典で行った演説。（速記版-共和国大統領府） 一部割愛

\*China Daily 「アジアの軍事専門家たちは米国のクラスター爆弾供与を非難する